

メソアメリカ、古代都市の起源

アステカ文明の源流を探る

1. 古代メソアメリカ文明の概略

・アメリカ大陸への入植

アメリカ大陸へ入植した最初の人々は、マンモスをはじめとする大型動物を追う狩猟民であった。しかし約1万年前頃に大型動物は絶滅したことで、生業基盤の変更に迫られ、小型動物の狩猟や漁労、採集を基礎としながら少しずつカボチャやトウモロコシ、マメ、トウガラシ、アボカドなどを栽培化するようになっていった。およそ紀元前2000年頃に土器生産と定住農耕が開始され、農耕による品種改良が進みやがて複雑な社会が形成されていった。

・アメリカ大陸原産の植物

トウモロコシ、ウチワサボテン、カボチャ、トマト、ピーマン、トマティーヨ、唐辛子、インゲン豆、カカオ、落花生、アサイ、アセロラ、バナナップル、パバニア、ジャガイモ、サツマイモ、ヤーコン、アボカド、タバコ、バニラ、アナトー(ペニキの種子)、アリタソウ(エバソテ)、オールスバイス
動物: 七面鳥、犬(ショロイスクウントレなど)

・古代メソアメリカ文明とは

地理的範囲: 現在のメキシコの一部、グアテマラ、ベリーズ、エル・サルバドル、そしてホンジュラス、ニカラグア、コスタ・リカの一部。

年代: 前2500/2000年から後1521年。

古代メソアメリカ文明の時代区分

<形成期(先古典期): 前2500/2000~後250年>

土器の出現、定住化、農耕の開始、人口増加、身分格差の発生、都市の発生、王権の萌芽などの特徴

<古典期: 250~900年>

古代国家の形成、中央集権化、遠距離交易網の確立、宗教体系の成熟、文字や暦の発達、冶金術の発展などの特徴

<後古典期: 900~1521年>

軍事主義化、貴族や中産階層の台頭、メソアメリカ全域を覆う交易網の確立などに特徴

・メソアメリカとは

1943年にP.キルヒホフが提案した概念。時代ごとに要素の広がりや特徴は異なるが、大まかにこれらの文化要素を共有している地域をメソアメリカと呼ぶ。

・文化的特徴

- 崩壊まで石器時代(青銅器を主要な利器とせず、鉄器は発明するに至らなかった)。
- 運搬用家畜や車輪が不在の人力文明
- トウモロコシを主食とする。
- 多神教
- 天文学と暦の発達。

表1 メソアメリカの文化要因

メソアメリカの文化要因	メソアメリカの政治体制に影響を与えたもの	メソアメリカの文脉の中で見出される要素
石器(磨き石)は比較的新しい。	西貿易、陶器(CE, SW, CH, AD)、アーチ形の石拱門(CE, SW, CH, AD)。	莫大な富(CE, CH, AD)、莫大な資源(CE, SW, CH, AD)。
フル(施肥)、トナンバ(深井灌漑)。	トウモロコシ(CE, SW, CH, AD)。	トウモロコシ(CE, SW, CH, AD)。
テオティワカン(都)(サザン丘陵の都)	テオティワカン(CE, SW, CH, AD)。	テオティワカン(CE, SW, CH, AD)。
玉器(祭祀用)・カラコロ(空心の石)	カラコロ(CE, SW, CH, AD)。	玉器(CE, SW, CH, AD)。
人骨遺物(CE, SW, CH, AD)。	人骨遺物(CE, SW, CH, AD)。	人骨(CE, SW, CH, AD)。
断面石(石版)、骨格粘土製版、細割六角形	人骨(CE, SW, CH, AD)。	断面石(CE, SW, CH, AD)。
柱(柱子)による隠密性。	柱(CE, SW, CH, AD)。	柱(CE, SW, CH, AD)。
無鋸齒、火炎標印、火炎標印。	無鋸齒(CE, SW, CH, AD)。	無鋸齒(CE, SW, CH, AD)。
手刀(手斧)、手刀(手斧)等。	手刀(CE, SW, CH, AD)。	手刀(CE, SW, CH, AD)。
シーチェコタランギム、ウニコ(陶器)。	シーチェコタランギム(CE, CH, AD)。	シーチェコタランギム(CE, CH, AD)。
サルダニヤ(ソリュード)、ウニコ(陶器)。	ウニコ(CE, SW, CH, AD)。	ウニコ(CE, SW, CH, AD)。
リソダニヤ(球根)。	リソダニヤ(CE, CH, AD)。	リソダニヤ(CE, CH, AD)。
断文字、断刻文字、柱彫り。	柱彫り(CE, CH, AD)。	柱彫り(CE, CH, AD)。
365日暦(CE, CH, AD)。	365日暦(CE, CH, AD)。	365日暦(CE, CH, AD)。
260日暦(CE, CH, AD)。	260日暦(CE, CH, AD)。	260日暦(CE, CH, AD)。
二輪の駕の組み合せ(CE, SW, CH)。	二輪の駕の組み合せ(CE, SW, CH)。	二輪の駕の組み合せ(CE, SW, CH)。
圓錐形とごとの祭り。	圓錐形とごとの祭り(CE, SW, CH, AD)。	圓錐形とごとの祭り(CE, SW, CH, AD)。
首口(酒口)、誕生日による命名。	首口(CE, SW, CH, AD)。	首口(CE, SW, CH, AD)。
顎とチーク筋肉による命名。	顎とチーク筋肉による命名(CE, SW, CH, AD)。	顎とチーク筋肉による命名(CE, SW, CH, AD)。
骨の胸郭、人骨刺繍(死後も、生き残った骨頭)、自己装飾(首飾り、首飾り)。	骨の胸郭(CE, SW, CH, AD)。	骨の胸郭(CE, SW, CH, AD)。
カラマール、神殿数10、真高の寺宇。	カラマール(CE, SW, CH, AD)。	カラマール(CE, SW, CH, AD)。
精神的共同体と社會の統合。	精神的共同体と社會の統合(CE, SW, CH, AD)。	精神的共同体と社會の統合(CE, SW, CH, AD)。
内側の世界(里)、外側の世界(外)。	内側の世界(里)、外側の世界(外)(CE, SW, CH, AD)。	内側の世界(里)、外側の世界(外)(CE, SW, CH, AD)。
アステカの都(都)、都(タマセカニ)。	アステカの都(都)、都(タマセカニ)(CE, SW, CH, AD)。	アステカの都(都)、都(タマセカニ)(CE, SW, CH, AD)。
特許譲渡のための裁判。	特許譲渡のための裁判(CE, SW, CH, AD)。	特許譲渡のための裁判(CE, SW, CH, AD)。

* () 内はその要約は見られないメソアメリカ以外の文化知識の略称。
CE: 北半球東部、SW: 西半球西端、CH: カナブナ(コスタリカ-コロンビアにかけての「小アン第」)、AD: アンダス、AZ: アンデス山脈。

出: Paul Kirchhoff, "Mesoamerica", in Una definición de Mesoamérica, México, UNAM, 1992, pp. 36-44に基づき作成。



図1：メソアメリカ地域区分

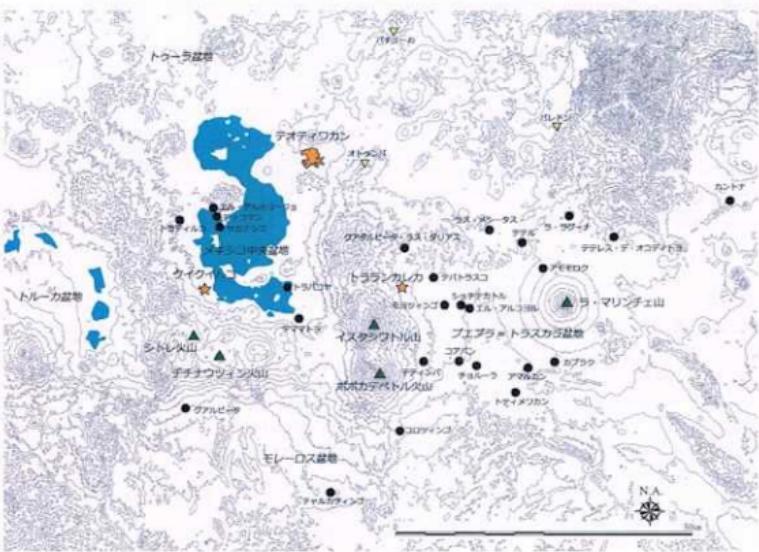


図2：メキシコ中央高原図

福原弘識（埼玉大学・明治大学・文京学院大学 非常勤講師）

hironorifukuhara@gmail.com

2. 都市とは何か？

日本の地方自治法の市

- 原則として人口5万人以上
- 中心地市街地の戸数が全戸数の6割以上
- 商工業等の都市的業態に従事する世帯人口が全人口の6割以上

ゴードン・チャイルドによる都市社会の定義（Childe 1950）

- それ以前に存在しない大きな集落に高い人口密度で人々が居住
- 業工人、運送屋、商人、官吏、僧侶など食糧生産に携らない人々の存在
- 食糧生産に携わる人々は税金を神または王に収めた。
- 社会的余剰を象徴するような巨大な建造物
- 寺院や王立食物倉庫に貯蔵の余剰生産物によって、非生産者は食べてゆける。
- 記録する手段と科学の発達
- 文字の発明
- 芸術の出現
- 産業や宗教のために、長距離運ばれてきた、非在地の原料の輸入
- 血縁に寄らず、専業工人は地位、住居などが保証

3. メソアメリカにおける都市

都市の起源：モンテ・アルバン

オアハカ盆地に栄えたサボテカ文明の首都モンテ・アルバンは、盆地中央の山上400mの農耕に不適切な場所に前500-300年に形成された。都市形成の過程でオアハカ盆地の人口はモンテ・アルバンに集中した。モンテ・アルバンには20以上の神殿ピラミッドが中央広場の内外に建設され、政治・軍事センター、宗教センターが営まれ、支配者たちは大建造物群に居住した。

テオティワカン

テオティワカンが都市としての様相を呈するのは国家形成期のツァカアリ期と国家段階のトラミミロルバ期、シヨラルバ朋期（表2）である。テオティワカンが形成されたのは農業適地から離れた盆地平野部であり、自然地形に宗教的意義を持たせた選地と推測される。テオティワカンが他の地域と区別されるのは、テオティワカンが唯一無二の首都として機能し、人口の極端な集中したという首都テオティワカンの占める特殊な位置である。他の地域では遺跡間に階層性があり、第2第3の集落を間接的に支配する階層構造がみられるのに対し、テオティワカンの周辺には小規模集落しか見当たらない。

- 人口の過度な集中
- 人口は10万人を超える。都市域は20平方キロメートルを超える。
- 15度30分東にふれた方位軸を持つ計画都市
- 長さの基本単位（TMU）：約83cm
- 太陽のピラミッド（一边223m、高さ65m）、月のピラミッド（一边150m、高さ47m）など主要建造物の距離や長さがTMUで割り切れ、暦に関連した聖数（52、260、584、819）になる。
- アパートメント・コンパウンド（集合住宅）が建設され、手工芸生産や行政、宗教、交易、軍事に従事した人々は専業であったと考えられる。
- オアハカやメキシコ西部、マヤ、メキシコ湾岸から来た外国人の居住区が設けられた。

倉庫はメソアメリカ全域で確認されておらず、テオティワカンでは文字が使われなかった。しかし人口集中や都市計画、巨大な建造物、長距離交易の証拠、住居の供給体制などから都市であったと言える。では、メキシコ中央高原における都市は、この地域で発達したアイデアだったのか。それとも遠く他地域から持ち込まれたアイデアだったのか。

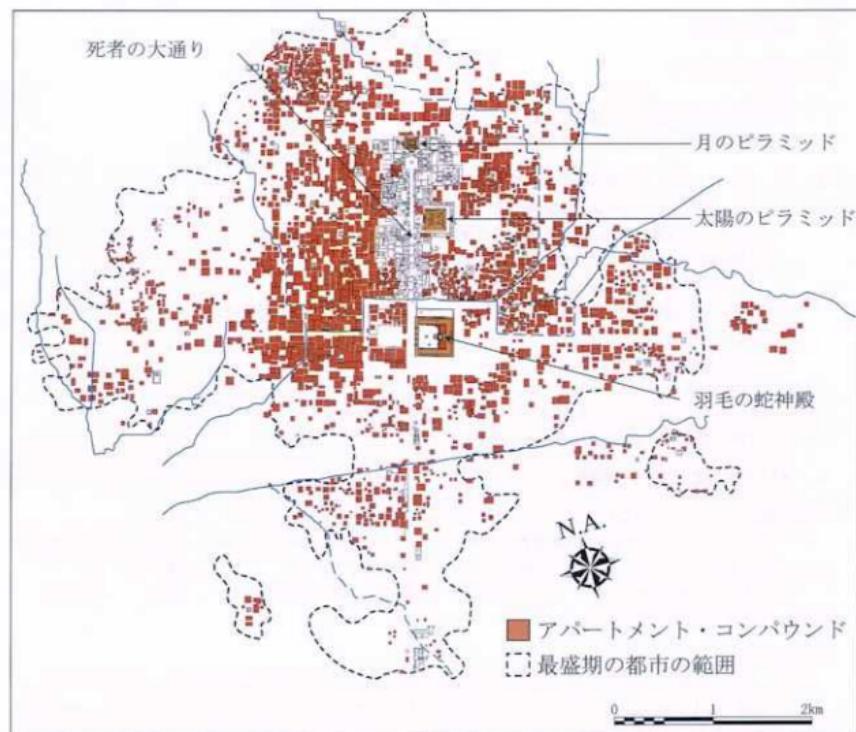


図3：テオティワカン遺跡図

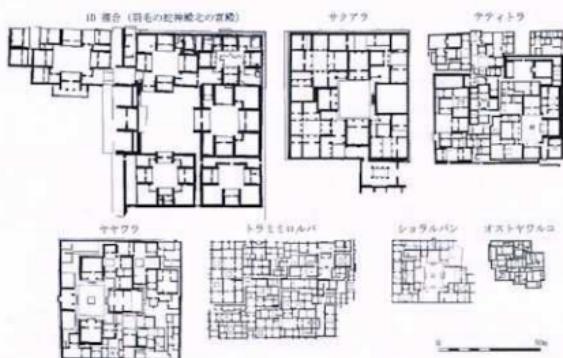


図4：主要なアパートメント・コンパウンド

4. メキシコ中央高原史

<形成期：前2000-後250年>

- 大きな集落へ、人口が緩やかに集約化
- 都市が誕生する。
- トランカレカの都市はその後の時代のテオティワカンと多くの共通点を有していた。

表2：トランカレカとテオティワカン編年

時期	年代	トランカレカ	主要な出来事	テオティワカン	年代	
古典期	600		テオティワカンの衰退	メテベック期	600	
	500			ショラルバ後期	中心部の統治的機構と豪族と 大型公共建築物の建設活動停止	500
	400			ショラルバ初期		400
	300		トランカレカの放棄 シトレ火山噴火	最盛期 (人口最大)		300
	200		チチナツシン火山噴火	都市の機能與権力アーモント・コンパウンドの建設ラッシュ		200
形成期後期・終末期 紀元後 紀元前	100	アシキアパン初期	トランミロバ初期	アーモント・コンパウンド (住居) 建設の開始	100	
	100	アシキアパン中期	ボロバカペトル火山噴火	ミカオトリ期	中心部の重要な大型公共建築物の建設と都市化	100
	100	アシキアパン終期		ツカアリ期	公共建築物の建設開始	100
	100	デンキアパン初期		バトラチケ期	国家完成期	紀元後 紀元前
	100	デンキアパン中期		テソコカ期	建設の大規模定住村落による平野部の耕作	100
形成期中期	200	トランミロバ期		クアナラン期	200	
	300				300	
	400				400	
	500		モンテ・アルバンで居住開始			500
	600		トランカレカで居住開始			600
形成期前期	700				700	
	800	ジョンパンメテベック期			800	
	900				900	
	1000				1000	
	1100				1100	
1200				1200		

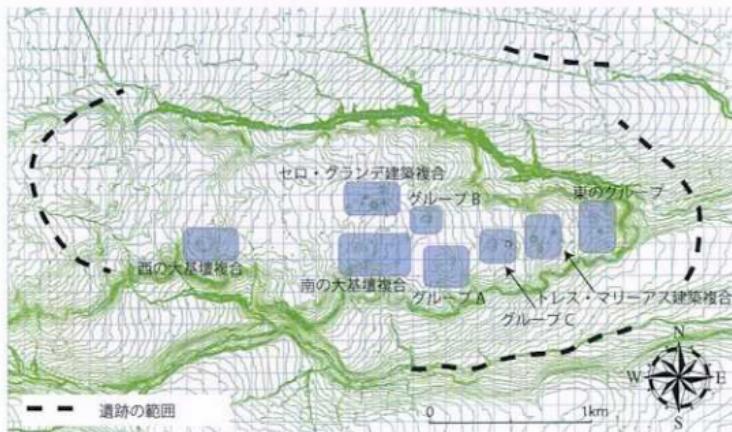


図5：トランカレカ遺跡地図

<古典期前期：250-600年：テオティワカンの繁栄>

- メキシコ中央高原地域や他の地域から様々な民族・言語集団がテオティワカンへ集い、大都市／古代国家を形成した。
- テオティワカン社会は高度に階層化され、都市民たちは支配者に供給された共同住宅に住み、経済活動を活発化させた。人口は10万人を超え、都市域は20平方キロメートルを超える。
- 支配者は宗教力、軍事力、経済力を背景にメソアメリカ各地へ影響力を及ぼした。
- 西暦550年前後に中心部は火災を受けて衰退し、中間エリート層は自らの権益を守るために、テオティワカンを離れていく。

<古典期後期：600-900/1000年：中規模都市による群雄割拠>

- 戦争モチーフの増加や都市が自然の要害に築かれる点から紛争の増加が類推される。
- 近隣国と政治的に対立しつつ、遠隔地と経済的・政治的に結び付くのがこの時代の特徴。
- 古典期後期の終わりにトゥーラ・チコが衰退し、カカシュトラやショチカルコも衰退する。

<後古典期前期：900/1000-1200年：トゥーラの繁栄>

- トゥーラ・グランデが最盛期を迎える。トゥーラ・チコ時代に4kmだった都市域は16kmに広がり人口6-8万人を抱えるメキシコ中央高原最大の都市となる。
- メキシコ盆地の人口が増加していく。
- トゥーラはチャルチウイテス文化（北方文化）との類似性を持ち、遠くマヤ地域のチチェンイツアとも関係を持つ国際都市に成長するが、「帝国」のような大版図を持ったわけではなく、あくまで地域間ネットワークの重要な拠点の一つとして反映した。

<後古典期後期>

- 三都市同盟が成立し、メキシコ盆地の人口が最大になる。
- 湖上に造られたテノチティランは、20万から30万の人口を数える大都市に成長した。

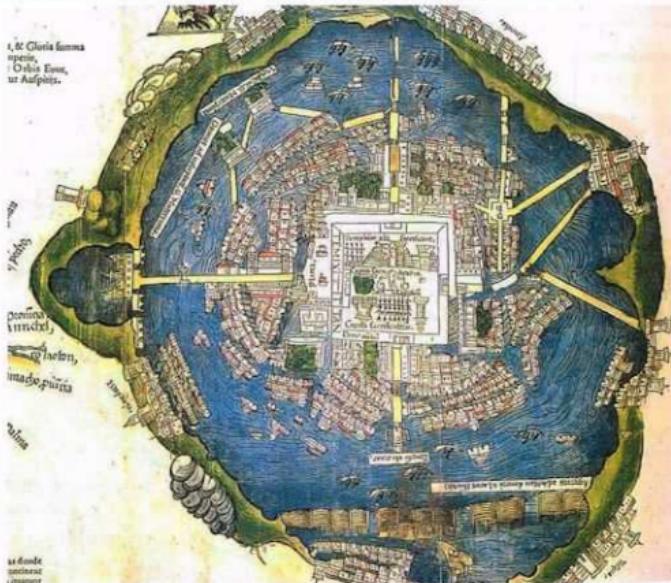
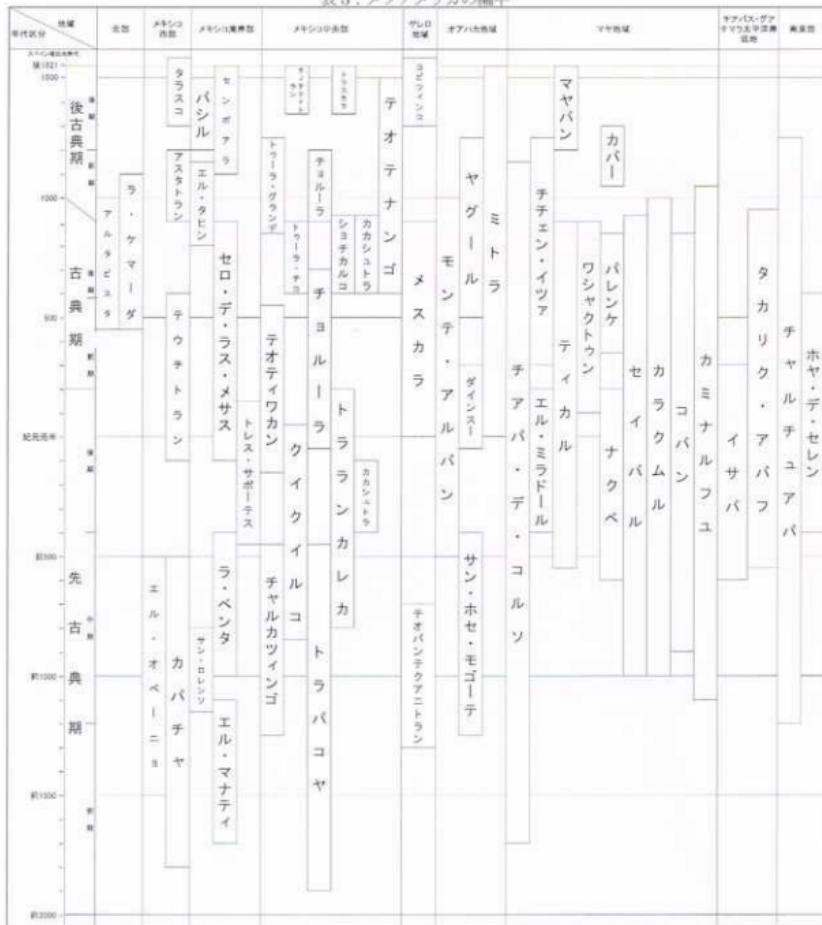


図6：テノチティラン（メシーカ人の首都）

5. 古代都市の起源とアステカ文明の源流

- 古代都市はこれまで考えられてきたように前500年頃にモンテ・アルバンだけで始まったわけではなく、同時に多発的にトランカレカなどでも発達していた。
 - メソアメリカ社会は、先行する社会の文化や制度を模倣し、取り込むことで発展した社会であった。

表3：メソアメリカの編年



講師 プロフィール

埼玉大学講師 福原 弘識 先生

1977年東京生まれ。埼玉大学教養学部卒業、同大学院文化科学研究科終了後、

愛知県立大学大学院国際文化研究科博士後期課程単位取得満期退学。

修士（文化科学・埼玉大学）。専門分野は新大陸考古学・人類学。

著書に「メソアメリカを学ぶための 58 章（明石書店）」などがある。